

第14回運営委員会の協議状況

日時 平成17年1月24日(月) 18:30～21:15
場所 いたみホール 会議室1
出席者 (委員) 松本(誠)、川谷、岡田、佐々木、中川、長峯
伊藤、岡、酒井、山仲
(県) 田中、黒田、西川、松本、前川、前田、竹松

内容(協議結果)

次の協議結果を次回流域委員会に報告、提案する。

1 第12回流域委員会議題の調整

(1) 治水計画の詳細検討(確率雨量・計画対象降雨の設定(継続))

次回の流域委員会では、まず、前回から継続の引き伸ばし倍率について協議し、項目A検討フローの2の「(5)計画対象降雨群の設定」の論点を明確にする。その後、項目A検討フローの2の「(2)流域平均雨量の算定」から「(4)計画降雨量の設定」について協議する。

(主な意見)

- ・ 引き伸ばし率について、前回の委員会では2倍か2.5倍かの議論になった。どちらかに決めるべきか。
- ・ なぜ2倍だったら駄目なのかの議論が必要ではないか。
- ・ 河川砂防技術基準を受け入れるのか否か、受け入れるのであれば、「2倍程度」の程度の解釈をどうするのか。カバー率や棄却との関係などを含め、次回委員会で議論すればよい。
- ・ 河川砂防技術基準について、国交省の考え方を直接聞く(確認する)機会を持つてはどうか。
- ・ 流域平均雨量については、まだ議論されていない。その他の議論されていない項目も議論が必要
- ・ ティーセン分割について意見が出ているが、細かい分割で計算して、何と比較するのか。出てきた数値をどう評価するのか。
- ・ 県の計算方法以外についても、次回委員会で問題提起してもらえばよいのではないか。

(2) ワーキンググループの運営

資料の保管場所は、事務局で対応を検討する。

ワーキンググループで収集する資料の収集実務は、原則として事務局が県庁各一部局、自治体(市)等から収集する。事務局による収集が困難な場合には、ワーキンググループの委員等が直接行う場合もある。

会議場所は、宝塚土木の会議室が利用できるよう検討する。

移動費用(旅費)は、どの程度の活動が行われるか不明だが、事務局で対応を検討する。人件費(謝金)は、活動内容が確定してから検討する。

(主な意見)

- ・ グループ活動については、委員会の業務か、有志で行うものや個人的に勉強するものか、区分が困難な場合が出てくる。
- ・ ワーキンググループは、どのような作業をするのか運営委員会に諮った上で、活動を行うこととしている。ワーキンググループの作業は委員会活動の一環であり個人的な作業ではない。
- ・ ワーキンググループの活動については、活動レポートの提出、公表が必要である。

2 その他

(1) リバーミーティングの運営

今回の司会は、中川委員とする。

委員からの資料配付依頼については、テーマに即する資料についてのみ対応(配付)する。なお、閲覧コーナーに置くことは、原則として、自由とする。

委員は、(住民の出席について、)可能な限り声かけをする。

配付資料は、リーフレット、ニュースレター3号等とする。

次回のリバーミーティングは、3月26日(土)西宮市開催で流域委員会に諮る。

参加住民の議事録確認の取り扱い(発言者による事前の確認は行わないが、ホームページ公表後に訂正の必要がある場合は事務局に連絡し訂正を求める旨)について、参加住民に配付する留意事項のチラシに記載しておく。

(2) その他

流出解析の詳細な検討については、項目Aの検討が進んだ段階で、必要があれば分科会または専門部会等を設けて、専門的な分析等を行うことも検討する。

継続となっている台風23号災害の復旧状況等については、次々回(13回流域委員会)以降に、事務局から報告する。

次回の運営委員会は、2月8日(火)18:00から開催する。